

学内講座における RCC就職レディネス・チェック(Web版) 活用事例

駒澤大学 キャリアセンター

加藤 駿

導入の経緯・ツール使用の目的

日本の新卒一括採用の仕組みが変わらない中で、就職活動は年々早期化してきている。青田刈りをして囲い込みを狙ったり、時期を分散させて学生の負担を減らそうとしたり、企業の早期化の思惑は様々である。しかし、このように時期が早まっている就活市場の中でも、スタートが遅れてしまう学生は多くいるように思われる。本学も例外ではなく、かねてより3年生の初動の遅さが課題として指摘されている。

スタートが遅れる学生にその理由を聞くと、「何から手を付ければよいかわからない」、「やりたいことがわからない」、「具体的に何をすればよいかわからない」という意見が非常に多い。この「わからない」の裏を返して、「今何をすべきか」を決めることができれば、主体的に動き出せるようになるのではないだろうか。

そこで目をつけたのが、「RCC就職レディネス・チェック(Web版)」である。私の前の担当者が、学生の就活における課題を可視化するために導入したものであった。ここから、このツールを課題把握だけに留めず、意識的に早めに活用する方法について検討することにした。

活用場面・活用方法

学生が就職活動に向けて早くからスタートするためには、自分が今すべきことを理解していることが必要だと考えている。しかも、他者から強要され

るのではなく、あくまで自分自身が必要だと感じて取り組めると、納得感が得やすいはずだ。

そこで本学では、3年生を対象に「RCC就職レディネス・チェック解説講座」を手作りで実施することにした。この企画のコンセプトとして、ツール自体の解説をした上で、「結果を踏まえて、具体的なアクションプランを立てる」ことを柱としている。

4月の就職ガイダンスでツールについて周知し、学生には5月中旬に受験してもらおう。解説講座は5月下旬から6月上旬に実施を想定しており、構成する上で次の3点を意識した。

①学内講座と各項目の関係性を伝える
学生がこのツールを活用することに
より、「A就職意欲度」、「Bキャリア
プラン設計度」、「C環境理解度」、「D
就職活動理解度」、「E思い込みから
の自由度」の5項目について自分の進
捗状況を確認することができる。これ
らについて解説すると同時に、各項目
と結びつきの強い学内講座を紹介する
ことで、「弱点はわかったが、何をす
ればよいかわからない」という状況
を回避してもらい、「まず講座に出て
みよう」という意欲を促せるのではな
いかと考えた。なお、参加者には資料
として「講座・準備度相関表」(表1)
を配付し、各項目と学内講座との関係
性が視覚的に理解しやすい工夫も
している。

②具体的なアクションプラン作成を補助する

各項目に対応した学内講座を知るこ

とで動き出すメドが立てられれば、解説講座の実施目的として半分は達している。しかし、このままでは「やるべきことがわかったので、いつかやる」と先延ばしになってしまうという事態も考えられる。そのため、本講座は実際に学生が自分のアクションプランを立てられるようになることに重点を置いていく。そこで活用しているのが、「RCC就職レディネス・チェックワークシート」(表2)である。

このワークシートは一番左側の列に質問が用意されており(A~Dの各項目10問ずつ)、「はい」と回答できる質問に「○」をつけながら取り組む。「○」がつく質問はその項目において自分ができていることで、逆につかないところは自覚する弱点とも言えるだろう。注目すべきは中央の列にある「aアクションプラン」と「プラン開始予定日」で、課題を可視化するだけでなく、学生が「いつ何をするか」まで考えられるように工夫を凝らしていることである。表1で紹介した相関表には学内講座の内容だけでなく、日時まで記載されているため、学生は相関表を参考にしながら、このワークシートにて今後のアクションプランを自分で考えることになる。

実際の講座では15分程度を設け、参加者にじっくりアクションプランについて検討してもらっている。

③アクションプランの共有

①、②の工程では「いつまでに何をします」ということまで、自分で考えて決められることを想定している。③で

表1 講座・準備度相関表(一部抜粋)

講座名	開催時期	内容	就職意欲度	キャリアプラン設計度	環境理解度	就職活動理解度
インターンシップ進め方、選び方	6/4(金)	インターンシップ・就活のスケジュールや進め方を確認。インターンシップ参加のメリット、選考について伝えます。	○		○	○
【企業人事から聞く】インターンシップのススメ	6/25(金) 7/6(火)	企業人事担当者を招いてのパネルディスカッション。学生のどこを見ていいのかなど、リアルな情報が得られます。	○		◎	◎
適性・興味から考えるインターンシップの選び方	6/4(金) 6/14(月) 6/22(水) 7/1(火)	自己分析をしながら、企業がどのようなインターンを実施しているのかを知り、参加するインターンについて考えます。	○	○		○
インターンシップの選考突破法	6/14(月)	インターンシップの選考に必要な応募書類に磨きをかけたための書き方を学びます。	○		○	○

表2 RCC就職レディネスチェックワークシート(一部抜粋)

A RCC就職レディネスチェック [ワークシート] 項目すべてに「か」がついたら、そのアクションプランを立て直しましょう。

- チェックリストの項目で「か」の項目は、就職活動の準備ができていない。
- 「か」の項目は、準備ができていない。準備ができていない項目は、就職活動の準備ができていない。
- 「か」の項目は、準備ができていない。準備ができていない項目は、就職活動の準備ができていない。
- 「か」の項目は、準備ができていない。準備ができていない項目は、就職活動の準備ができていない。
- 「か」の項目は、準備ができていない。準備ができていない項目は、就職活動の準備ができていない。
- 「か」の項目は、準備ができていない。準備ができていない項目は、就職活動の準備ができていない。
- 「か」の項目は、準備ができていない。準備ができていない項目は、就職活動の準備ができていない。

項目	準備ができていない	準備ができていない	準備ができていない	準備ができていない
A 就職意欲度	○か? どのくらいか	○か? どのくらいか	○か? どのくらいか	○か? どのくらいか
B キャリアプラン設計度	○か? どのくらいか	○か? どのくらいか	○か? どのくらいか	○か? どのくらいか
C 環境理解度	○か? どのくらいか	○か? どのくらいか	○か? どのくらいか	○か? どのくらいか
D 就職活動理解度	○か? どのくらいか	○か? どのくらいか	○か? どのくらいか	○か? どのくらいか
E 思い込みからの自由度	○か? どのくらいか	○か? どのくらいか	○か? どのくらいか	○か? どのくらいか

表3 学生の感想(一部)

自分と同じように不安を抱えている方がいたのがわかり、とても安心しました。これから取り組んでいかなければならないことや、取り組み方がわかったのもとても良かったです。

具体的にどうしたらいいかをご教示いただけ参考になりました。

現時点で自分が足りなかった項目を高められるキャリアセンターの支援イベントの紹介がすごく役に立ちました。今後参加してさらに就活に対する意識を高めたいと思います。また、なかなか他の学生の就活状況を知る機会がなかったので他の学生がどんなことをやっているとどうしているのかを知ることができたのもすごく良い収穫になりました。

ワークシートの記入により、自分の今後の方針が明確になったから。

これからどうしていくべきかを具体的に知ることができたから。

自分の課題がわかり、就活の道のりがすっきりしてきた。

資料1 学生のアクションプランの例

項目	1回目	2回目
A 就職意欲度	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
B キャリアプラン設計度	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
C 環境理解度	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
D 就職活動理解度	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
E 思い込みからの自由度	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

資料2 某学部3年生チェックリストの結果

回目	実施日	A	B	C	D	E
1回目	5月17日実施	9	13	10	9	11
2回目	1月23日実施	18	19	14	19	15

項目	1回目	2回目
A 就職意欲度	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
B キャリアプラン設計度	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
C 環境理解度	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
D 就職活動理解度	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
E 思い込みからの自由度	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

はアクションプランを共有することで、周囲の学生のプランを参照したり、自分のプランへの不安を払拭したりすることを狙いとしている。具体的には講座内で3人1組のグループを作り、ワークを行う。そこで「自信の持てたこと」「就職活動に関する課題」「これから取り組むこと」を共有し合い、最終的に自分のアクションプランを微調整してもらおう。想定外ではあったが、コロナ禍で情報共有がしにくくなった状況にもうまくマッチさせることができ

活用効果と学生の感想
以上の①〜③を経て、受講者は自分の課題を把握するだけでなく、未来を見据えた方針がある程度明確にできていく様子が見えてくる。また、学生同士の情報共有が不安を和らげるのに大きく役立っていることが学生の感想からも見て取れる(表3)。実際に考えてみたアクションプランをどこまで遂行できているかを追いきれてはいないが、少なくともスタート段階でのモチベーションにはなっていると云って差し支えないであろう。

学生のRCC結果プロフィール例と解説
受講前と受講後で特に変化が見られた学生の事例についても触れておきたい。

以下の資料はある学部3年生のアクションプランとチェックリストの結果である。

学内講座受講前の1回目のアクションプランは未記載の白紙であるのに対し、受講後の1月にRCC Web版の2回目を受けた際に書いたアクションプランはある程度記入することができている。チェックリストの結果も5月に受けた1回目より、1月に受けた2回目の方が大きく数値を伸ばしている。もちろん、講座受講の効果だけではなく、学生自身が独自に取り組んだ活動の影響も容易に予想できる。しかし、課題を自覚し、アウトプットする機会になっているという意味でこの

今後の課題と展望
本学ではRCC Web版を「学生の初動を後押しする」ために活用することを目指している。その意味で、このツールを使った学生については多少のサポートはできたと感じている。しかしながら、その成果をWeb上のログイン履歴でしか追えておらず、現状は使用した個別の学生それぞれに寄り添った支援ができていない。今後の課題はツールを使用した結果を参考に、個別相談などで個人に寄り添った支援に発展させていくことだと考えている。